

## 令和5年度 全学共通科目に関する調査（学生対象）

**調査概要** 全学共通科目のうち「社会人基礎力入門」、「初年次ゼミ I」、「初年次ゼミ」、「自己と社会・地域論」、「初年次ゼミ II」の5科目について、学生を対象としたアンケート調査を実施した。調査では、授業内容に関する5項目について5段階の自己評価で理解度を測るとともに、講義前後の変化について2択で測った。また、学生自身がより修得したい、もしくは修得する必要があると思う内容について自由記述を求めた。調査にはマナバコースのアンケート機能を用いた。

**調査時期** 前期調査：2023年7月（15回目授業）  
後期調査：2024年1月（15回目授業）

**調査対象** 大学1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ I」「自己と社会・地域論」「初年次ゼミ II」  
短期大学部1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ」「自己と社会・地域論」  
※ 留学生は「社会人基礎力入門」「自己と社会・地域論」を2年次に受講するため、対象は短期大学部2年生となる。

**調査内容** 科目ごとにシラバスの到達目標をまとめた5項目の設問について、「全くできていない」、「あまりできていない」、「どちらともいえない」、「ある程度できている」、「よくできている」の5段階で回答を求めた。また教育前後の変化を把握するため、前述の理解度について「講義前から変わらない」、「講義前より力がついた」のどちらかで選択回答を求めた。

### 社会人基礎力入門

1. 社会人に必要な基礎学力である「読む・書く・聞く」力の重要性を理解している
2. 正しい敬語を使うことができる
3. 社会人マナーについて理解している
4. 社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)の重要性を理解している
5. 情報社会に必要なリテラシーを身につけている

### 初年次ゼミ I

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 収集した情報をルールにのっとり引用することができる
4. 根拠に基づき自分の考えを主張することができる
5. 基本的な構成に沿って、体裁を整えたレポートを書くことができる

### 初年次ゼミ

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 基本的な構成に沿ったレポートを書くことができる
4. プレゼンテーションのための資料(スライド, ハンドアウトなど)を作成できる
5. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる

### 自己と社会・地域論

1. 自己理解、他者理解を深め、円滑な人間関係を築くことができる
2. ストレス・コントロールの方法を理解し、実践できる
3. 徳島県の地場産業や企業の特徴を説明することができる
4. 地域貢献活動の目的や必要性について、自分の考えを述べることができる
5. 積極的に意思を表明し、グループワークに貢献できる

### 初年次ゼミ II

1. 自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる
2. プレゼンテーションのための効果的な資料(スライド, レジюмеなど)を作成できる
3. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる
4. グループの中で共通理解が得られるようにディスカッションすることができる
5. ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる

### 全科目

自由記述「科目の内容であなた自身もっと学びたい、また時間をかけて学ぶ必要があると思う内容を書いてください」

### 調査結果

各科目のアンケート回答者数、自由記述回答者数は下記の通りであった。

科目名	回答者数 (大学)	回答者数 (短期大学部)	回答者数 (全体)	回答者数 (自由記述)
社会人基礎力入門	442	103	545	285
初年次ゼミ I	460	-	460	225
初年次ゼミ	-	105	105	52
自己と社会・地域論	379	37	416	170
初年次ゼミ II	426	-	426	175

## 結果の概要

### 1. 学修内容の理解度

#### 【社会人基礎力入門】

5項目全てで「よくできている」「ある程度できている」の肯定的回答が8割を占めていた。特に、社会人に必要な基礎学力「読む・書く・聞く」の重要性と社会人マナーについては9割以上の学生が肯定的に回答した。否定的回答は、5項目全てにおいて全体の3%未満であり、概ね学修内容を理解・修得していると考えられた。またすべての項目で8割以上が「講義前より力がついた」と回答した。

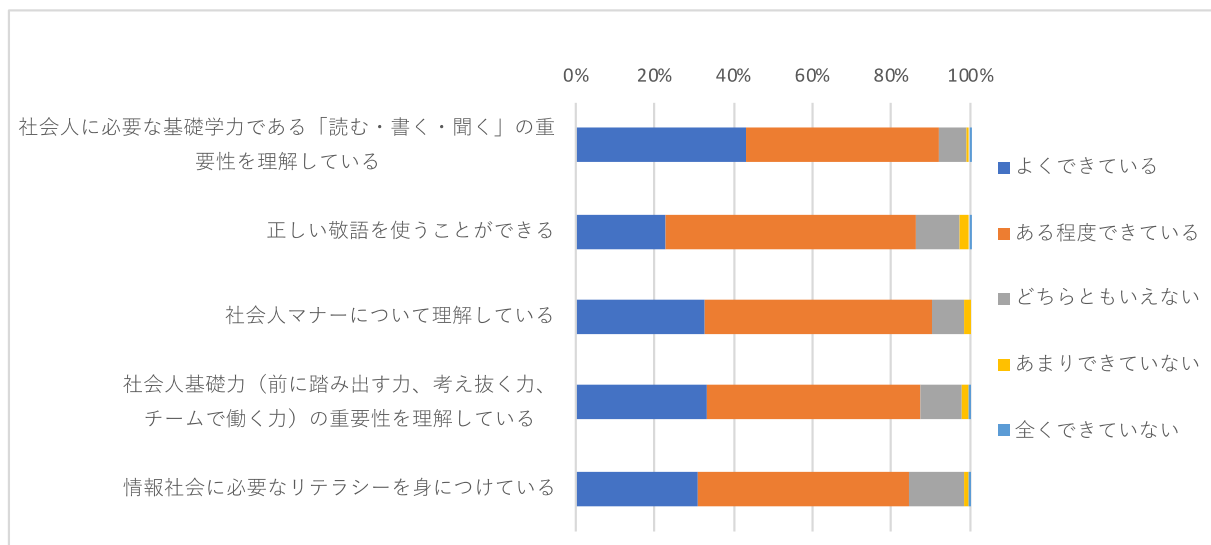


図. 社会人基礎力入門の学修内容の理解度

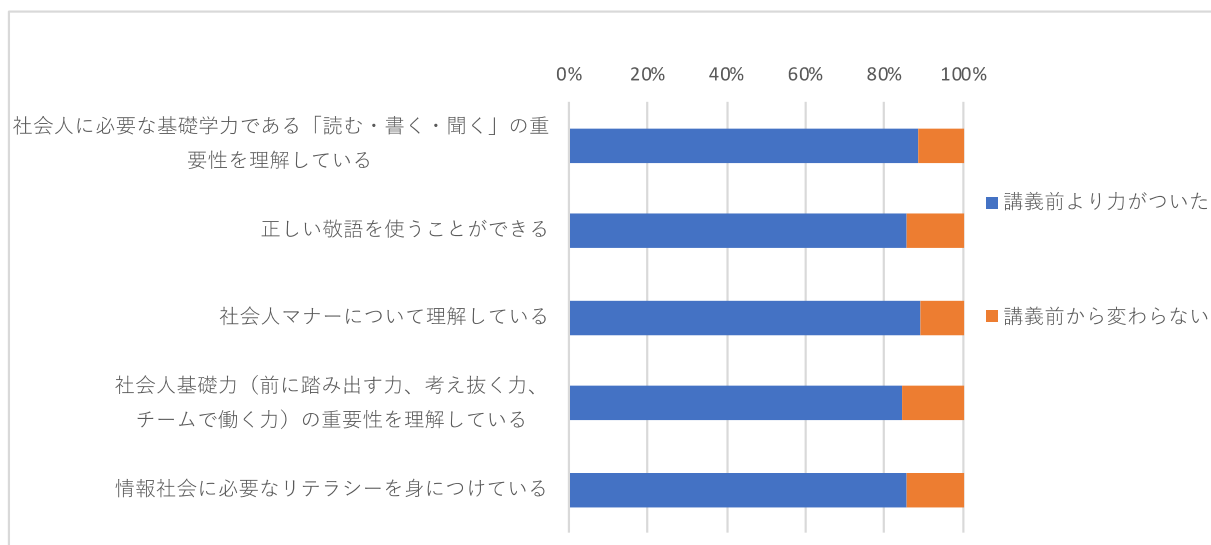


図. 社会人基礎力入門の講義前後の変化

【初年次ゼミ I】

5項目の設問のうち〈根拠に基づき自分の考えを主張することができる〉と〈基本的な構成に沿って、体裁を整えたレポートを書くことができる〉については「どちらともいえない」もしくは否定的な回答が約20%を占めていた。初年次ゼミ I はレポートの書き方の基本を初めて学ぶ授業として位置づけられ、ここから実践を重ねることによって理解度がさらに高まるものと期待される。

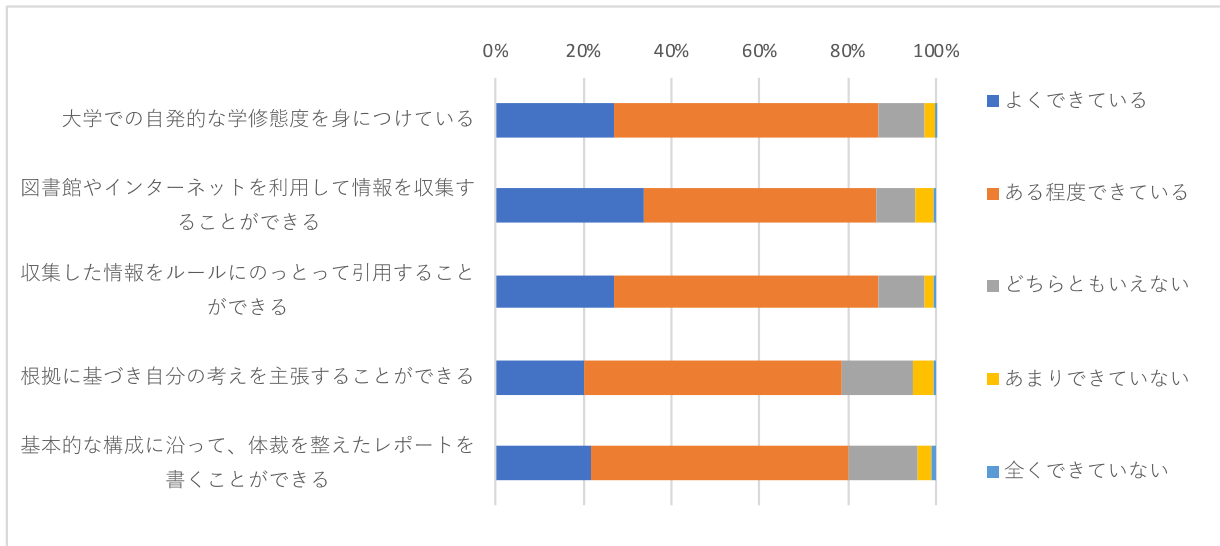


図. 初年次ゼミ I の学修内容の理解度

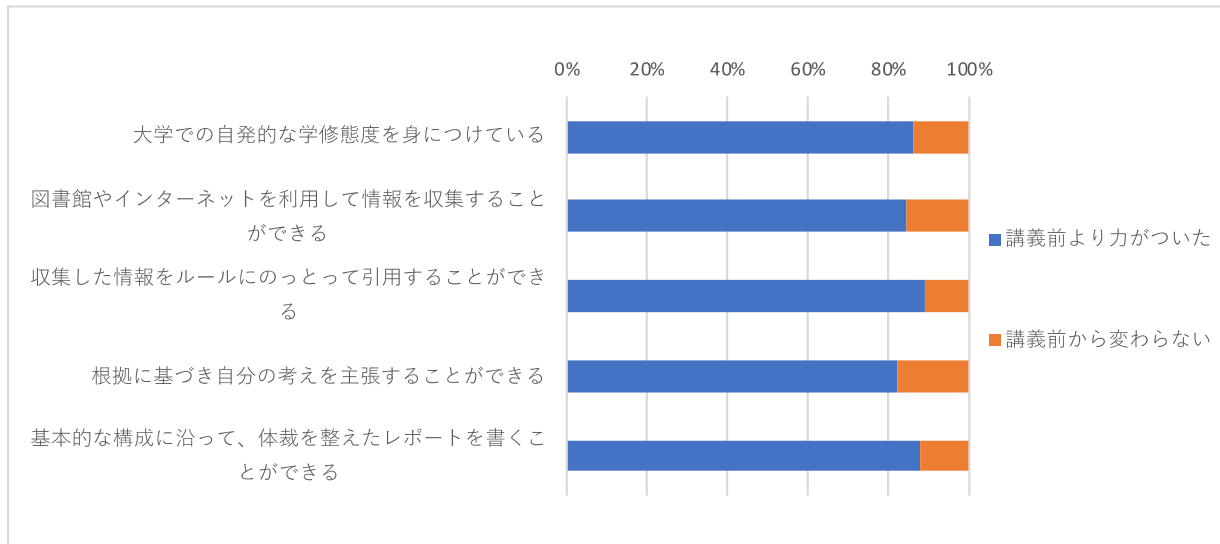


図. 初年次ゼミ I の講義前後の変化

### 【初年次ゼミ】

5項目の設問のうち〈相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる〉では「どちらともいえない」もしくは否定的な回答が約23%を占めていた。多くの学生がプレゼンテーションに対する苦手感が伺えた。講義前後の変化においても〈プレゼンテーションのための資料（スライド、ハンドアウトなど）を作成できる〉と〈相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる〉の2項目は他の3項目よりも自身の力が「講義前から変わらない」と回答した学生が多かった。短期大学部には留学生を含むバックグラウンドの異なる学生が在籍しており、学力の差が大きく、前年同様に難易度の設定が課題である。

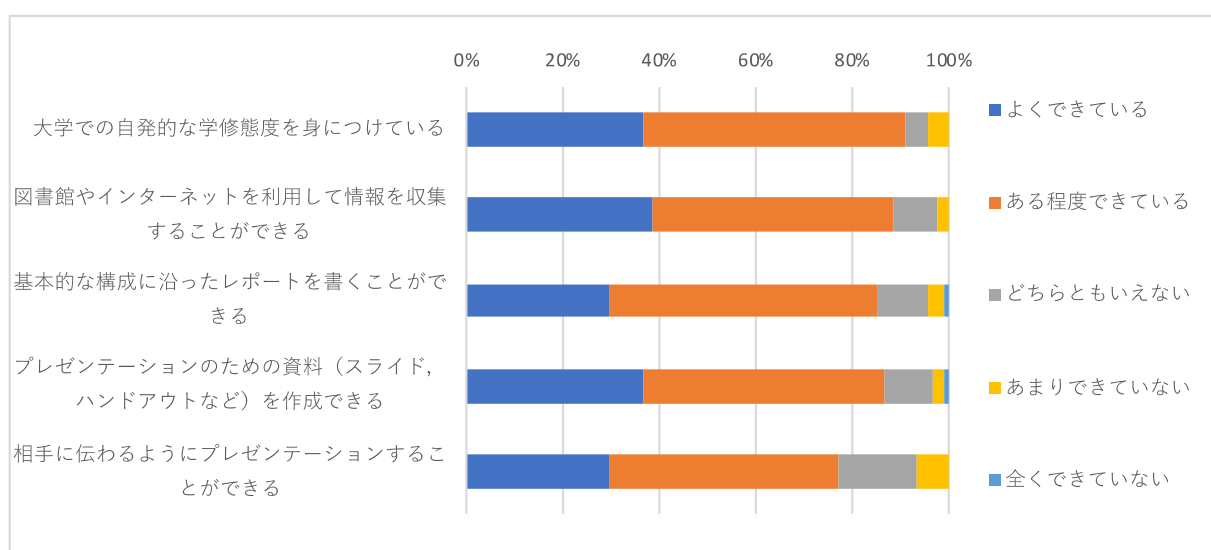


図. 初年次ゼミの学修内容の理解度

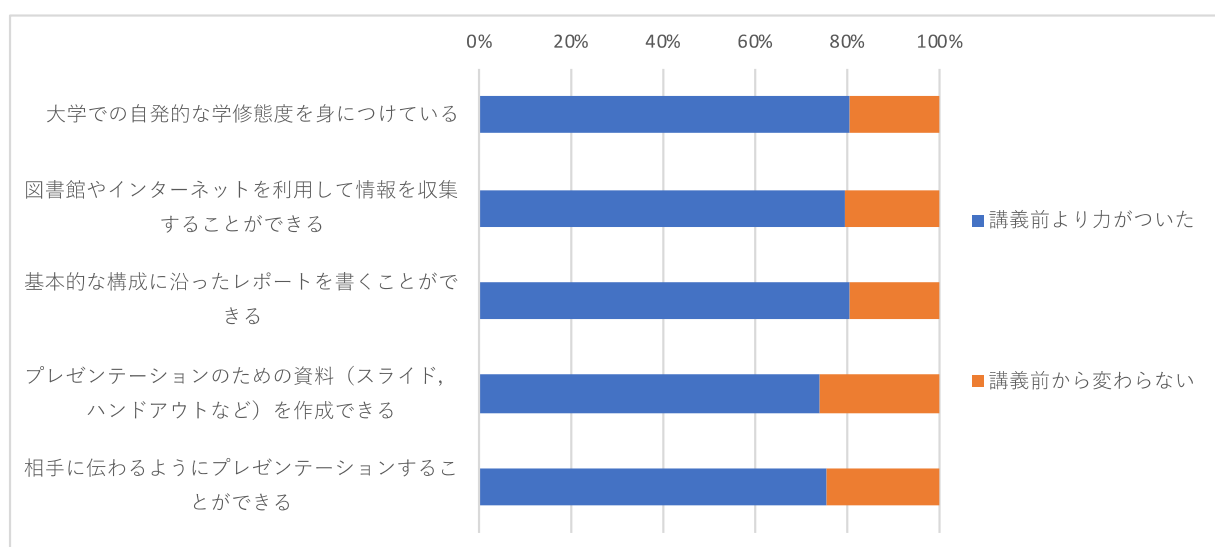


図. 初年次ゼミの講義前後の変化

【自己と社会・地域論】

前半の「自己論」と後半の「社会・地域論」における〈地域貢献活動の目的や必要性について、自分の考えを述べることができる〉については8割以上で肯定的な回答が得られた。ただし講義前後の変化については他の授業に比べて「講義前から変わらない」の割合が高かった。ワークを多く取り入れる授業内容であるものの、さらに修得の実感を高める工夫が必要である。

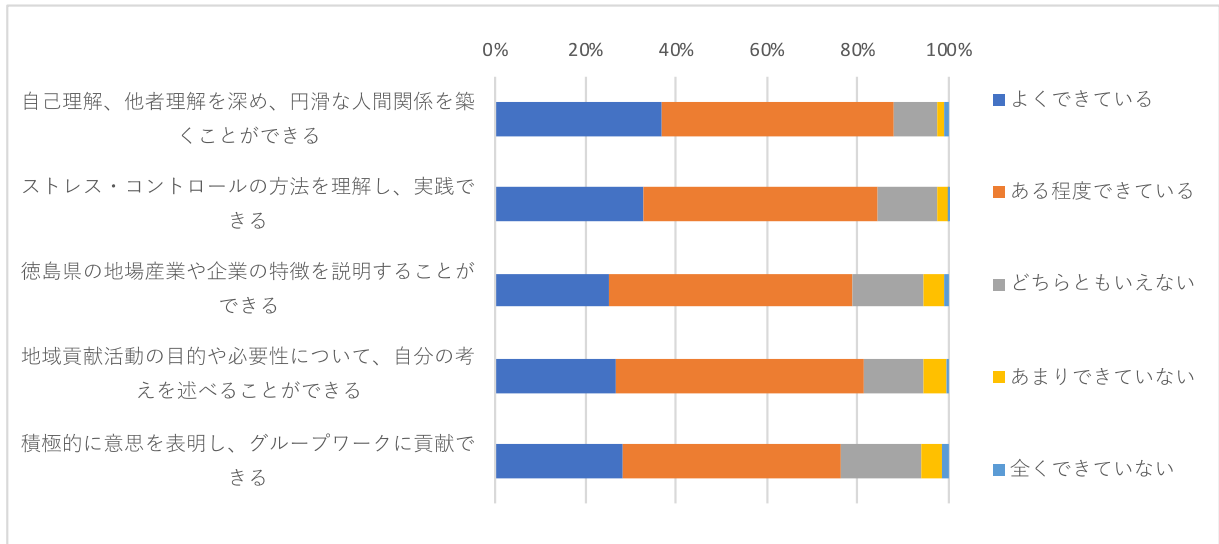


図. 自己と社会・地域論の学修内容の理解度

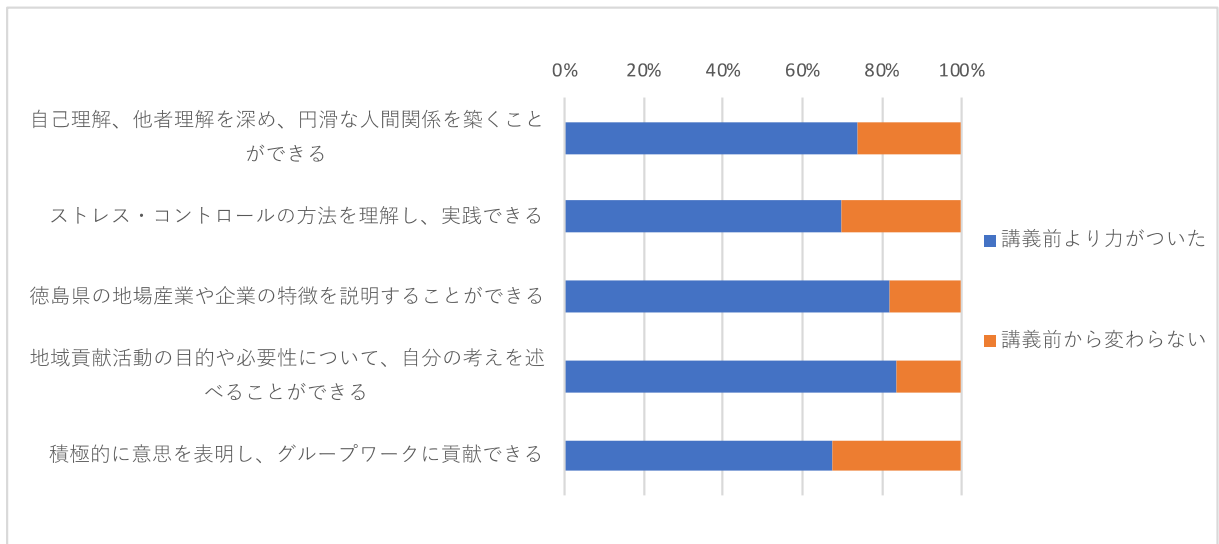


図. 自己と社会・地域論の講義前後の変化

【初年次ゼミ II】

〈自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる〉と〈プレゼンテーションのための効果的な資料（スライド、レジュメなど）を作成できる〉では、ともに8割以上の学生が肯定的に回答した。一方でプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートの実践に関する項目では、自己評価の難しさからか「どちらともいえない」の回答が一定数見られた。初年次ゼミ IIはプレゼンテーションやディスカッションを身に付ける最初の授業であるため、十分に修得できていると実感した学生は少なかったと考えられる。

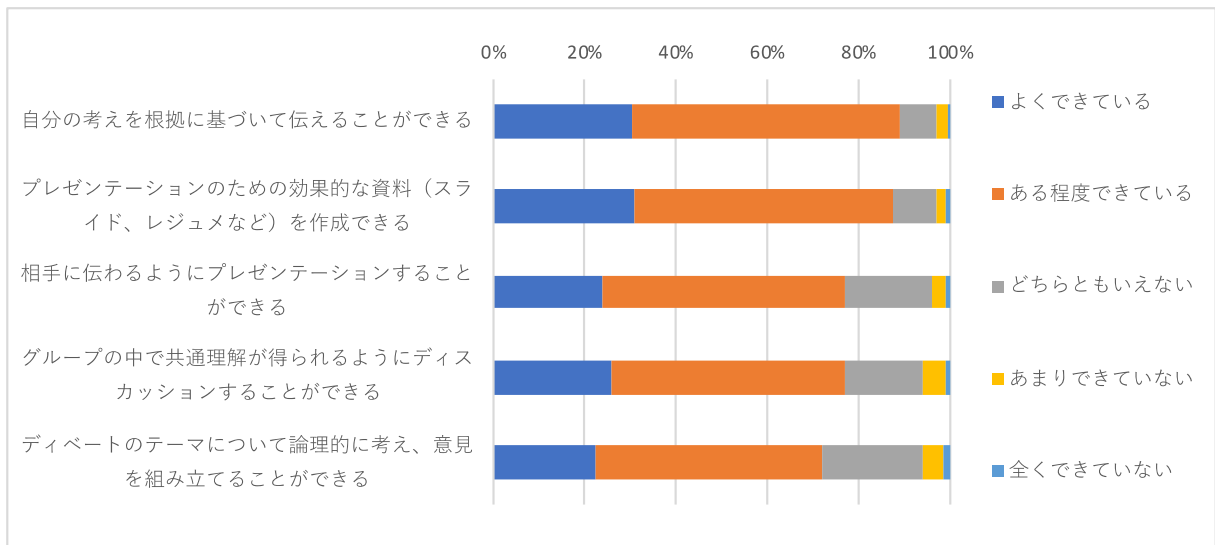


図. 初年次ゼミ II の学修内容の理解度

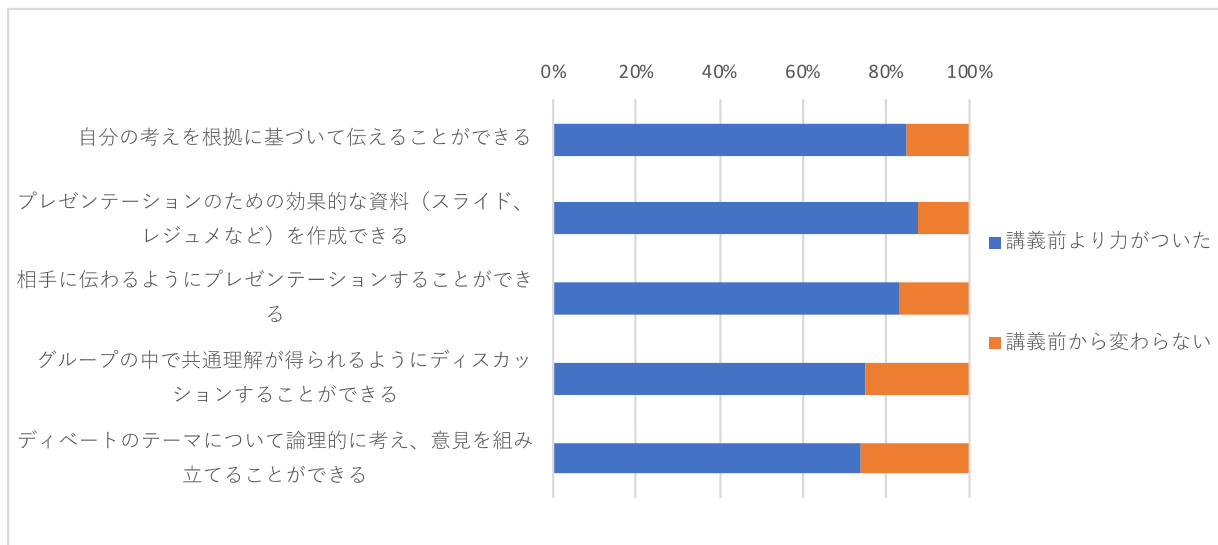


図. 初年次ゼミ II の講義前後の変化

## 2. 自由記述内容

### 【社会人基礎力入門】

最も多く出現した語は「敬語」で、有効回答 285 のうち 165 が「敬語」に関係するものであり、回答全体の 58%を占めた。続いて「礼儀・マナー」が全体の 26%であり、「電話対応」19%、「情報リテラシー」12%と続いた。学生の多くがいずれ社会にでることを想定し、敬語やマナーについて更に学ぶ必要性を感じていることが伺えた。

### 【初年次ゼミ I】

「レポート」や「論文」の「書き方」をもっと身に付けたいという意見が大半であり、回答全体の 61%を占めた。続いて「引用の仕方」が 11%、「正しい言葉づかい」が 7%、自分の意見の主張が 6%、情報収集の仕方が 4%と続き、身に付けたい内容の詳細は多岐にわたっていた。

### 【初年次ゼミ】

学修項目としては「プレゼンテーション」と「レポート」に関する記述が最も多く、「プレゼンテーション」は全体の 44%、「レポート」は全体の 40%であった。短期大学部には留学生が多く所属しており、多くの学生が社会に出ることを見据えて自身の更なるスキルアップをすることの必要性を感じていることが伺えた。

### 【自己と社会・地域論】

最も多く出現した語は「地域貢献活動」で回答全体の 30%であり、続いて「地場産業」の 25%、「徳島県」の 14%と続き、授業後半の「社会・地域論」に関するものが回答全体の 69%を占めた。また前半の「自己論」に関しては、「ストレス」が 11%、「自己の理解」が 8%、「コミュニケーション」6%で、「自己論」関連のものは全体の 25%という結果であった。

結果から、受講した多くの学生が「地域」を「学ぶ」ことや「理解」すること、「徳島県」の「企業」、「地域貢献」やその「活動」について更に学ぶ必要性を感じているといえる。県外出身者からは「地元」の「会社」についても知りたいという意見が見られた。

### 【初年次ゼミ II】

最も多く出現した語は「プレゼンテーション」（※プレゼン、プレゼンテーションと表記されていたものは統一した）で回答全体の 37%、続いて「パワーポイント」が 17%でプレゼンに関連するこの二つは全体の 54%を占めた。その他「ディベート」が 15%、「ディスカッション」と「レポート」がともに 11%という結果であった。学修項目としては、「プレゼンテーション」において発表時の伝え方や効果的なスライド作成についての意見が最も多く、次に「ディベート」で自分の意見を相手に伝えることをもっと身に付ける必要があると考える学生が多いようであった。また「レポート」は前期開講科目の初年次ゼミ I で学ぶ項目であるが、初年次ゼミ II は引き続きの授業であるため、書き方について本科目でもっと学びたいと思う学生もいたようである。